

3 学生アンケートの集計結果とその解析

3-1. 回答率, 実施率, 実名公表率

3-1-1. 前期

表1は, 前期について回答率, 実施率, 実名公表率を回答率の降順に並べた一覧表である。受講者数は, 正確には履修登録者数で, アンケートの実施有無に拘わらず, 当該領域に履修登録をした全学生数を示す。従って, 回答率に影響する第一の因子は, アンケートの実施率であろう。次に影響する因子は, アンケート実施日における欠席者数であろう。しかし, クラスサイズが均一ではないので, 回答率に対する両者の影響を厳密に論ずることはできない。

回答率降順の表(表1)と実施率降順の表(表2)と比較すると, 上から3番目まで, 即ち「健康・スポーツ」, 「生命・反応」, 「数理・物質」の順序は同じである。実施率7番目の「外国語」は回答率では4番目と顕著に順位を上げている。同様に「情報処理」が1つ順位を上げている。これら領域は, ほぼ必修と考えて良く, 学生の出席率が良いと考えて良いだろうか。これに反し, 実施率を基準にして, 「文化・行動」と「総合」はともに回答率で2つ順位を下げている。

実施率では, 「健康・スポーツ」の100%が突出している(表2)。2番目の「生命・環境」から5番目の「総合」までは, 1-2ポイント刻みで連続している。5番目の「総合」89%と6番目の「外国語」84%の間が5ポイント下がっているのが目に付く。それに続く「情報処理」, 「日本語・日本事情」はそれぞれ77%, 67%と顕著に低い。

次に, 実名公表率の降順では(表3), 「生命・環境」の94%が突出して1位である。2位は17ポイントも下がって77%の「健康・スポーツ」で, その後5位まで「総合」, 「日本語・日本事情」, 「数理・物質」と1-2ポイントの差で連続している。6位は5位より7ポイント低い66%で人文社会系の「文化・行動」と「政経・社会」が並んでいる。8位には, 更に9ポイント下がり「外国語」が来, 最後尾は辛うじて半分を上回る53%の「情報処理」である。

3-1-2. 後期

回答率1番は, 前期同様「健康・スポーツ」であるが(表4), 前期の80%から77%へとわずかに減少している。前期と比べ2番目と3番目が入り替わり, 後期では「数理・物質」が2番目, 「生命・環境」が3番目であった。この入れ替えはあるものの, 前・後期ともに, 上位3番までの領域は同じであった。どの領域でも前期に比べ回答率が減少する中「総合」領域のみ, 前期の56%から後期に69%と上がっているのが目に付く。前期に比べ, おしなべて回答率が下がったのは学生の出席率が前期より悪くなったのであろうか。

表5より, 実施率は, 1位98%の「数理・物質」と2位97%の「健康・スポーツ」が1ポイント差で並んでいる。3位はともに91%の「総合」と「情報処理」である。前期2位の「生命・環境」は, 前期に比べ実施率を4ポイント落とし90%となり, 順位は5位まで後退している。「情報処理」の実施率は, 前期より14ポイント増え91%で, 増加率が突出している。これに対し, 前期より顕著にポイントを落とした領域には, -8ポイントで83%の「政経・社会」, -7ポイントで84%の「文化・行動」, 同じく-7ポイントで60%の

「日本語・日本事情」がある。

表6より, 実名公表率の1位は100%の「日本語・日本事情」で, 92%の「健康・スポーツ」, 89%の「生命・環境」と続いている。「健康・スポーツ」と「生命・環境」は前・後期ともに上位3位に入っている。前期と比較し, 実名公表率の増加の著しい領域が2つあり, 27ポイント増で80%の「情報処理」と25ポイント増で100%の「日本語・日本事情」である。15ポイント増で92%の「健康・スポーツ」, 10ポイント増で76%の「政経・社会」がこれに続く。一方, 実名公表率減少の著しい領域は, -24ポイントの「総合」で, 残り4領域は-3から-5ポイントとなっている。

3-1-3. 総計

回答率は, 前期73%, 後期67%である。実施率は, 前期89%, 後期87%である。実名公表率は, 前・後期ともに68%である(例えば表1と表4)。

回答率は, 同一領域の授業科目のうち, クラスサイズの大きな授業科目がアンケートを実施しないと大きく減少するであろうし, 実施しても実施日に学生の欠席率が大きいと減少する等, 教官の授業改善に取り組む姿勢と関係ない要因で左右される可能性が大きいので, この値に一喜一憂しても仕方がなからう。

教育方法改善事業として重要なのは, アンケート実施率であろう。90%弱という実施率を大きいと見るか, 小さいと見るかは議論のある所であろうが, ボランタリーで実施率が90%近いのは, 本学の教養教育担当教官は教育方法改善に意欲的であると判断して良いのではなからうか。

しかし, 残りの10%が問題である。たまたま, アンケート期間中に出張していたのかも知れない。実施しようと思っていたが, 忘れてしまったのかも知れない。しかし, もし, 確信犯的にアンケートを忌避している場合は, アンケートを含めた本学の教育方法等改善事業見直しの参考に, その理由を聞かせてもらうことが重要な課題であろう。

実名公表率は, アンケート実施教官の内の70%弱であった。これも大きいと見るか, 小さいと見るか議論のある所であろう。実名公表の有無にかかわらず, アンケート実施教官には, 自分の担当科目の集計の終わったアンケート用紙と集計結果一覧は配布され, 学生の声は届く訳で, それを参考に自分の授業を改善することは可能であるから, 実名を公表せずとも, アンケートの主要な趣旨は達成され得ると考える。

表1. 回答率の降順による回答率、実施率、実名公表率(前期)

区分	領域	受講者数	回答者数	回答率	科目数	実施科目数	実施率	実名公表科目数	実名公表率
一般教育科目	健康・スポーツ	2369	1903	80%	44	44	100%	34	77%
一般教育科目	生命・環境	2146	1690	79%	18	17	94%	16	94%
一般教育科目	数理・物質	3144	2472	79%	43	40	93%	29	73%
外国語科目	外国語	4694	3544	76%	96	81	84%	46	57%
一般教育科目	政経・社会	4028	2882	72%	32	29	91%	19	66%
一般教育科目	文化・行動	3716	2550	69%	32	29	91%	19	66%
情報処理教育科目	情報処理	1199	806	67%	22	17	77%	9	53%
一般教育科目	総合	2163	1206	56%	19	17	89%	13	76%
日本語・日本事情科目	日本語・日本事情	33	18	55%	6	4	67%	3	75%
総計		23492	17071	73%	312	278	89%	188	68%

表2. 実施率の降順による回答率、実施率、実名公表率(前期)

区分	領域	受講者数	回答者数	回答率	科目数	実施科目数	実施率	実名公表科目数	実名公表率
一般教育科目	健康・スポーツ	2369	1903	80%	44	44	100%	34	77%
一般教育科目	生命・環境	2146	1690	79%	18	17	94%	16	94%
一般教育科目	数理・物質	3144	2472	79%	43	40	93%	29	73%
一般教育科目	文化・行動	3716	2550	69%	32	29	91%	19	66%
一般教育科目	政経・社会	4028	2882	72%	32	29	91%	19	66%
一般教育科目	総合	2163	1206	56%	19	17	89%	13	76%
外国語科目	外国語	4694	3544	76%	96	81	84%	46	57%
情報処理教育科目	情報処理	1199	806	67%	22	17	77%	9	53%
日本語・日本事情科目	日本語・日本事情	33	18	55%	6	4	67%	3	75%
総計		23492	17071	73%	312	278	89%	188	68%

表3. 実名公表率の降順による回答率、実施率、実名公表率(前期)

区分	領域	受講者数	回答者数	回答率	科目数	実施科目数	実施率	実名公表科目数	実名公表率
一般教育科目	生命・環境	2146	1690	79%	18	17	94%	16	94%
一般教育科目	健康・スポーツ	2369	1903	80%	44	44	100%	34	77%
一般教育科目	総合	2163	1206	56%	19	17	89%	13	76%
日本語・日本事情科目	日本語・日本事情	33	18	55%	6	4	67%	3	75%
一般教育科目	数理・物質	3144	2472	79%	43	40	93%	29	73%
一般教育科目	文化・行動	3716	2550	69%	32	29	91%	19	66%
一般教育科目	政経・社会	4028	2882	72%	32	29	91%	19	66%
外国語科目	外国語	4694	3544	76%	96	81	84%	46	57%
情報処理教育科目	情報処理	1199	806	67%	22	17	77%	9	53%
総計		23492	17071	73%	312	278	89%	188	68%

表4. 回答率の降順による回答率、実施率、実名公表率(後期)

区分	領域	受講者数	回答者数	回答率	科目数	実施科目数	実施率	実名公表科目数	実名公表率
一般教育科目	健康・スポーツ	2096	1621	77%	37	36	97%	33	92%
一般教育科目	数理・物質	2461	1789	73%	42	41	98%	28	68%
一般教育科目	生命・環境	1866	1298	70%	20	18	90%	16	89%
一般教育科目	総合	2357	1635	69%	23	21	91%	11	52%
外国語科目	外国語	4358	2888	66%	96	76	79%	41	54%
情報処理教育科目	情報処理	552	355	64%	11	10	91%	8	80%
一般教育科目	文化・行動	2871	1723	60%	31	26	84%	16	62%
一般教育科目	政経・社会	2411	1407	58%	30	25	83%	19	76%
日本語・日本事情科目	日本語・日本事情	33	18	55%	5	3	60%	3	100%
総計		19005	12734	67%	295	256	87%	175	68%

表5. 実施率の降順による回答率、実施率、実名公表率(後期)

区分	領域	受講者数	回答者数	回答率	科目数	実施科目数	実施率	実名公表科目数	実名公表率
一般教育科目	数理・物質	2461	1789	73%	42	41	98%	28	68%
一般教育科目	健康・スポーツ	2096	1621	77%	37	36	97%	33	92%
一般教育科目	総合	2357	1635	69%	23	21	91%	11	52%
情報処理教育科目	情報処理	552	355	64%	11	10	91%	8	80%
一般教育科目	生命・環境	1866	1298	70%	20	18	90%	16	89%
一般教育科目	文化・行動	2871	1723	60%	31	26	84%	16	62%
一般教育科目	政経・社会	2411	1407	58%	30	25	83%	19	76%
外国語科目	外国語	4358	2888	66%	96	76	79%	41	54%
日本語・日本事情科目	日本語・日本事情	33	18	55%	5	3	60%	3	100%
総計		19005	12734	67%	295	256	87%	175	68%

表6. 実名公表率の降順による回答率、実施率、実名公表率(後期)

区分	領域	受講者数	回答者数	回答率	科目数	実施科目数	実施率	実名公表科目数	実名公表率
日本語・日本事情科目	日本語・日本事情	33	18	55%	5	3	60%	3	100%
一般教育科目	健康・スポーツ	2096	1621	77%	37	36	97%	33	92%
一般教育科目	生命・環境	1866	1298	70%	20	18	90%	16	89%
情報処理教育科目	情報処理	552	355	64%	11	10	91%	8	80%
一般教育科目	政経・社会	2411	1407	58%	30	25	83%	19	76%
一般教育科目	数理・物質	2461	1789	73%	42	41	98%	28	68%
一般教育科目	文化・行動	2871	1723	60%	31	26	84%	16	62%
外国語科目	外国語	4358	2888	66%	96	76	79%	41	54%
一般教育科目	総合	2357	1635	69%	23	21	91%	11	52%
総計		19005	12734	67%	295	256	87%	175	68%

3-2. 受講動機

受講動機を領域別に集計し5位までを表7(前期),表8(後期)にまとめた。前期,後期ともに「外国語」,「情報処理」を除く他の7領域で,受講動機の1位は,2位を大きく引き離して「この授業に関心があったから」であり,学生の受講動機の健全さが伺える。例外であった「外国語」,「情報処理」の2領域では,領域の特殊性から「必修だから」が受講動機の1位となっている。

手段のよし悪しは別にして,1位に5点,以下順に1点ずつ減じ,5位に1点を与えることにより,表7,8に基づき全領域の受講動機を加重し集計した(表9)。受講動機の上位3までは,1位が「この授業に関心があったから(前期43点,後期43点)」,2位が「単位取り易そう(前期27点,後期30点)」,3位が「必修だから(前期24点,後期19点)」と前・後期ともに全く同じ順番である。先ほど「この授業に関心があったから」が1位であることから,学生の受講動機は健全であると述べたが,2位に「単位が取り易そうだから」が来ていることは興味深い。学生に取っては,単位が取り易そうかどうかという現実的項目も重要なのである。

ところで,前期の場合,学生は入学後直ちに時間割を作成しなければならない。学生は,どのようにして,ある授業科目の単位が取りやすそうか判断するのだろうか。「先輩の助言」が前期の受講動機9位に1点でかろうじて顔を出している所から,ごく少数の学生は先輩などから授業科目に関する情報を得ているのかも知れない。しかし,集計結果は,圧倒的多数の学生はそのような情報に接していないことを示唆している。すると,学生は「シラバス」記載の情報に基づき,単位の取りやすさを判断しているものと考えて良いだろう。もし,そうならば,「シラバス」の書き方次第で,受講者数がある程度左右されることになるだろう。どのようなシラバスをもって学生が単位を取り易そうだと判断するのか,今後の検討課題の一つであろうか。

後期に,2位「単位取り易そう」が3点増えているのに対し,3位「必修だから」が5点減っている。前期に「必修」をある程度満たし,後期には受講動機の加重が「単位の取り易さ」に若干移動したのであろうか。また,大学で前期半年を過ごし,1年生同士で単位の取りやすさの情報交換が行われているのかも知れない。3位以降では,受講動機に「専門に関係ある」と同程度に「専門にないから」が挙げられているのが印象的である。教養教育の重要な目的の一つである「全人教育」の観点から,将来集中的に学ぶであろう「専門」を離れて「専門にない領域」を選択するのは望ましい傾向と言えよう。健全な教養教育としては,「専門にないから」という受講動機の順位がもっと高いことが望まれるのではなかろうか。また,受講動機「その他」が前期5位,後期4位に挙げられている。現在使用しているアンケート用紙の選択項目が,受講動機を汲み上げきれないことを表しているのであろう。この点の検討も今後の検討課題の一つであろう。

領域別に,受講動機を5位まで表10-1から表10-9に示した。受講動機1位については既に言及したので,2位以下を見てみる。2位に「単位取り易そう」が挙げられた領域は「文化・行動」,「生命・環境」,「健康・スポーツ」,「総合」の4領域であり,「授

業に関心」は「外国語」と「情報処理」の2領域,「専門に関係ある」が「数理・物質」の1領域,「必修だから」が「日本語・日本事情」の1領域となっている。「政経・社会」の2位は前期「必修だから」から,後期「単位取り易そう」へ交代している。教育学部学生及び教員免許取得希望者には必修である,「政経・社会」領域の「日本国憲法」が前期にのみ開講されていることが,前期に「政経・社会」領域で「必修だから」が第2位に挙げられた原因かと推察される。

「数理・物質」領域の2位「専門に関係あるから」は,異色である。恐らく,理工系の学生が「専門基礎」的意味合いで,「必修」とは別に,自発的にこの領域を選択するのであろう。

また,「他が満員」という受講動機が「文化・行動」の前期4位,「政経・社会」の後期5位,「外国語」の前期4位,後期5位に挙げられており,これら領域での需給のミスマッチが伺われ,今後の検討課題の一つであろう。

「教官の魅力」という選択肢は「健康・スポーツ」と「外国語」にのみ見られる。「健康・スポーツ」では後期に初めて5位に挙げられ,「外国語」では前期5位12点から,後期は4位151点と大きくポイントを上げている。「健康・スポーツ」領域は前期,後期,同じ授業科目の重複履修が可能で,前期に相性の良かった教官の授業科目を後期にも履修するものであろうか。「外国語」も,前期の受講経験から,後期には個性,人柄,教授法など教官の属性も重要な受講動機となって来るのであろう。

表7. 受講動機(前期)

区分	領域	1位	2位	3位	4位	5位
一般教育科目	文化・行動	授業に関心 (1942)	単位取り易そう (227)	専門にない科目 (122)	他が満員 (47)	先輩の助言 (42)
一般教育科目	政経・社会	授業に関心 (1585)	必修だから (352)	その他 (272)	単位取り易そう (198)	専門にない科目 (160)
一般教育科目	生命・環境	授業に関心 (1113)	単位取り易そう (139)	その他 (101)	専門に關係ある (100)	専門にない科目 (94)
一般教育科目	数理・物質	授業に関心 (1405)	専門に關係ある (343)	必修だから (244)	単位取り易そう (177)	専門にない科目 (62)
一般教育科目	健康・スポーツ	授業に関心 (1394)	単位取り易そう (190)	必修だから (66)	その他 (56)	専門にない科目 (53)
一般教育科目	総合	授業に関心 (796)	単位取り易そう (197)	専門に關係ある (63)	専門にない科目 (46)	その他 (26)
外国語科目	外国語	必修だから (1374)	授業に関心 (1331)	単位取り易そう (211)	他が満員 (144)	教官の魅力 (12)
情報処理教育科目	情報処理	必修だから (579)	授業に関心 (138)	専門に關係ある (36)	その他 (20)	単位取り易そう (10)
日本語・日本事情科目	日本語・日本事情	授業に関心 (10)	必修だから (5)	単位取り易そう (2)	専門に關係ある (1)	-

表8. 受講動機(後期)

区分	領域	1位	2位	3位	4位	5位
一般教育科目	文化・行動	授業に関心 (1276)	単位取り易そう (185)	専門にない科目 (75)	その他 (54)	教官の魅力 (44)
一般教育科目	政経・社会	授業に関心 (947)	単位取り易そう (131)	専門にない科目 (84)	その他 (79)	他が満員 (49)
一般教育科目	生命・環境	授業に関心 (896)	単位取り易そう (146)	専門にない科目 (67)	専門に關係ある (51)	その他 (46)
一般教育科目	数理・物質	授業に関心 (942)	専門に關係ある (202)	単位取り易そう (196)	必修だから (174)	その他 (71)
一般教育科目	健康・スポーツ	授業に関心 (1196)	単位取り易そう (166)	必修だから (86)	その他 (43)	教官の魅力 (35)
一般教育科目	総合	授業に関心 (1076)	単位取り易そう (342)	専門にない科目 (48)	その他 (43)	専門に關係ある (42)
外国語科目	外国語	必修だから (1390)	授業に関心 (846)	単位取り易い (207)	教官の魅力 (151)	他が満員 (114)
情報処理教育科目	情報処理	必修だから (284)	授業に関心 (45)	その他 (8)	専門に關係ある (7)	単位取り易そう (5)
日本語・日本事情科目	日本語・日本事情	授業に関心 (10)	必修だから (4)	単位取り易そう (3)	その他 (1)	-

表9. 全領域受講動機加重集計結果

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
前期	授業に関心 43	単位取り易い 27	必修だから 24	専門と關係ある 14	その他 11	専門にない 9	他が満員 3	教官の魅力 2	先輩の助言 1
後期	授業に関心 43	単位取り易い 30	必修だから 19	その他 15	専門にない 12	専門に關係ある 9	教官の魅力 4	他が満員 2	-

表10. 領域別受講動機

表10-1. 一般教育科目 文化・行動

	1位	2位	3位	4位	5位
前期	授業に関心 1942	単位取り易い 227	専門にない科目 122	他が満員 47	先輩の助言 42
後期	授業に関心 1276	単位取り易い 185	専門にない科目 75	その他 54	教官の魅力 44

表10-2. 一般教育科目 政経・社会

	1位	2位	3位	4位	5位
前期	授業に関心 1585	必修だから 352	その他 272	単位取り易い 198	専門にない科目 160
後期	授業に関心 947	単位取り易い 131	専門にない科目 84	その他 79	他が満員 49

表10-3. 一般教育科目 生命・環境

	1位	2位	3位	4位	5位
前期	授業に関心 1113	単位取り易い 139	その他 101	専門に関係ある 100	専門にない科目 94
後期	授業に関心 896	単位取り易い 146	専門にない科目 67	専門に関係ある 51	その他 46

表10-4. 一般教育科目 数理・物質

	1位	2位	3位	4位	5位
前期	授業に関心 1405	専門に関係ある 343	必修だから 244	単位取り易い 177	専門にない科目 62
後期	授業に関心 942	専門に関係ある 202	単位取り易い 196	必修だから 174	その他 71

表10-5. 一般教育科目 健康・スポーツ

	1位	2位	3位	4位	5位
前期	授業に関心 1394	単位取り易い 190	必修だから 66	その他 56	専門にない科目 53
後期	授業に関心 1196	単位取り易い 166	必修だから 86	その他 43	教官の魅力 35

表10-6. 一般教育科目 総合

	1位	2位	3位	4位	5位
前期	授業に関心 796	単位取り易い 197	専門に関係ある 63	専門にない科目 46	その他 26
後期	授業に関心 1076	単位取り易い 342	専門にない科目 48	その他 43	専門に関係ある 42

表10-7. 外国語科目 外国語

	1位	2位	3位	4位	5位
前期	必修だから 1374	授業に関心 1331	単位取り易い 211	他が満員 144	教官の魅力 12
後期	必修だから 1390	授業に関心 846	単位取り易い 207	教官の魅力 151	他が満員 114

表10-8. 情報処理科目 情報処理

	1位	2位	3位	4位	5位
前期	必修だから 579	授業に関心 138	専門に関係ある 36	その他 20	単位取り易い 10
後期	必修だから 284	授業に関心 45	その他 8	専門に関係ある 7	単位取り易い 5

表10-9. 日本語・日本事情科目 日本語・日本事情

	1位	2位	3位	4位	5位
前期	授業に関心 10	必修だから 5	単位取り易い 2	専門に関係ある 1	-
後期	授業に関心 10	必修だから 4	単位取り易い 3	その他 1	-

3-3. この授業での欠席回数は

前期, 最も欠席回数の多かった領域は「日本語・日本事情」で0.95回, 「外国語」の0.77回, 「文化・行動」と「政経・社会」の0.75回が続く(図1)。反対に欠席回数の少なかった領域は順に「情報処理」0.42回, 「総合」0.55回, 「数理・物質」0.56回で, 最も少ない「情報処理」は「日本語・日本事情」の半分である。

欠席回数が最も多い「日本語・日本事情」でさえ, 平均すると約1日というのは, 出席を取る側の教官としては, いささか少なすぎるのではないかとの印象があるかも知れない。これを説明する要因として次のようなことが考えられる: 1) 日常良く経験する所であるが, 欠席が目立つのは少数の常連で, 「学生の欠席が多い」という教官側の印象は, それに引きずられており, 平均を取ればこの程度なのかも知れない, 2) 「欠席の常連」はアンケート調査の日にも欠席していた可能性があり, 欠席回数を減らす要因となる, 3) 回答する側の心理として, 己のマイナス・イメージの調査項目には, 評価が甘くなる可能性もある。

後期, 欠席回数の多かった領域は順に「外国語」0.73回, 「文化・行動」0.67回, 「政経・社会」0.64回であり, 少なかった領域は「日本語・日本事情」0.47回, 「情報処理」0.40回, 「生命・環境」と「健康・スポーツ」が0.47回である(図1)。

前・後期を比較して目立つのは, 1) 前期に欠席回数が最大であった「日本語・日本事情」が, 後期最小になっている, 2) 「情報処理」は前・後期とも, 欠席回数の少ない領域に挙げられる, 3) 「外国語」, 「文化・行動」, 「政経・社会」の3領域は, 前・後期ともに, 欠席回数の多い領域に挙げられる。

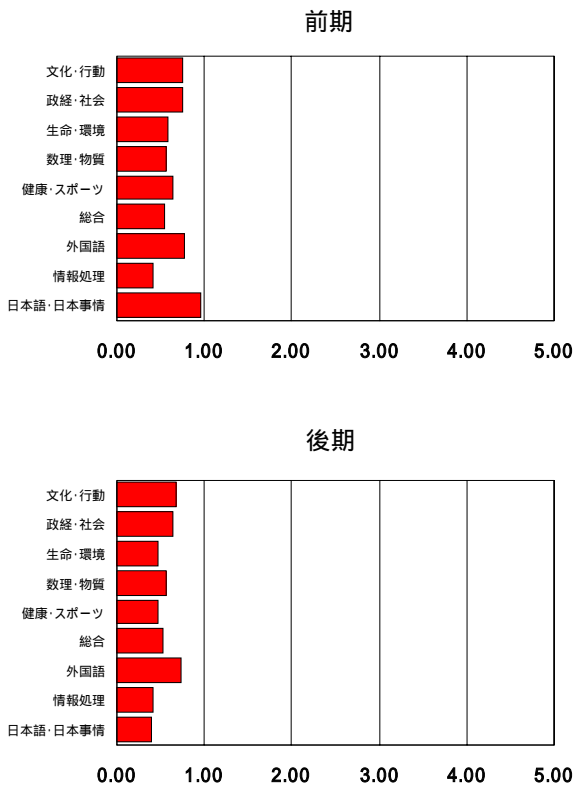


図1 この授業での欠席回数は

これらのことより, 1) 「日本語・日本事情」では, 前期と後期で, 教授する側または学生側, または両者に何か特記すべき変化があったか検討する必要がある, 2) 何故「情報処理」は欠席回数が少ないのか, 「外国語」, 「文化・行動」, 「政経・社会」は欠席回数が多いのか検討する必要がある。

3-4. この授業の休講回数は

前期, 休講回数の最大の領域は「健康・スポーツ」で1.01回, 「生命・環境」の0.95回, 「外国語」の0.93回と続く(図2)。休講回数の最小は「情報処理」の0.21回で最大の「健康・スポーツ」領域の1/5である。「日本語・日本事情」の0.50回, 「数理・物質」の0.69回がそれに続く。

後期, 休講の多かった領域は順に「日本語・日本事情」0.89回, 「政経・社会」0.84回, 「数理・物質」0.81回, 逆に少なかった領域は順に「情報処理」0.19回, 「文化・行動」と「総合」がともに0.53回であった。

前・後期を比較して目立つのは, 1) 「情報処理」が前・後期を通じて休講回数が際立って少ない, 2) 「日本語・日本事情」は前期には休講回数の少ない領域として挙げられ, 後期には休講回数が最大であった。

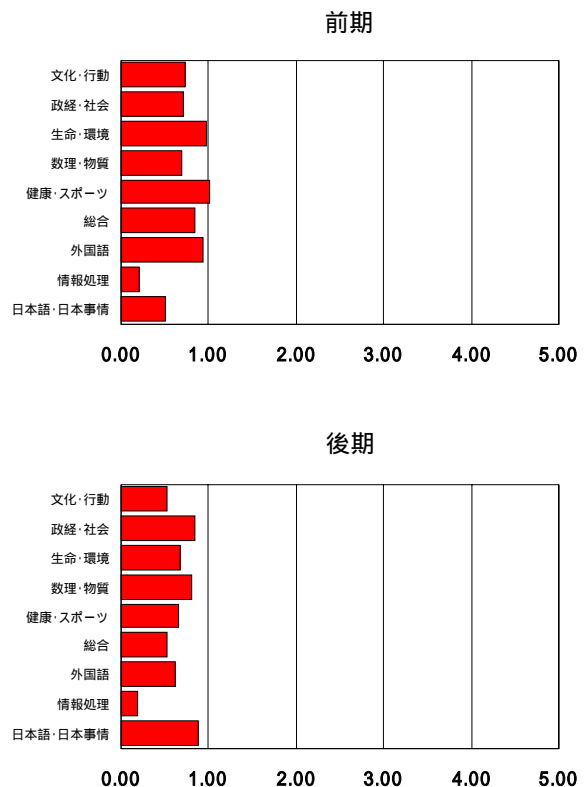


図2 この授業の休講回数は

3-5. この授業を意欲的に受講しましたか

評価が4点「まあそうである」を超えた領域は、前期で上から順に「健康・スポーツ」を筆頭に、「日本語・日本事情」4.40、「情報処理」4.14、「数理・物質」4.12、「外国語」4.07と続く(図3)。同様に、後期は、「日本語・日本事情」4.61を筆頭に、「健康・スポーツ」4.51、「情報処理」4.28と続く。その次の「外国語」は3.99でほとんど4と考えて良いであろう。「数理・物質」を除くと、学生が意欲的に受講する領域は、なんらかの意味でskillに関連する領域だということは興味深い。

上記領域を除く残りの領域の平均は、前期3.89±0.12、後期3.90±0.06である。これらの値は、極めて高いと考えて良いだろう。ここは素直に、本学の学生諸君の学が意欲に敬意を表しておく。

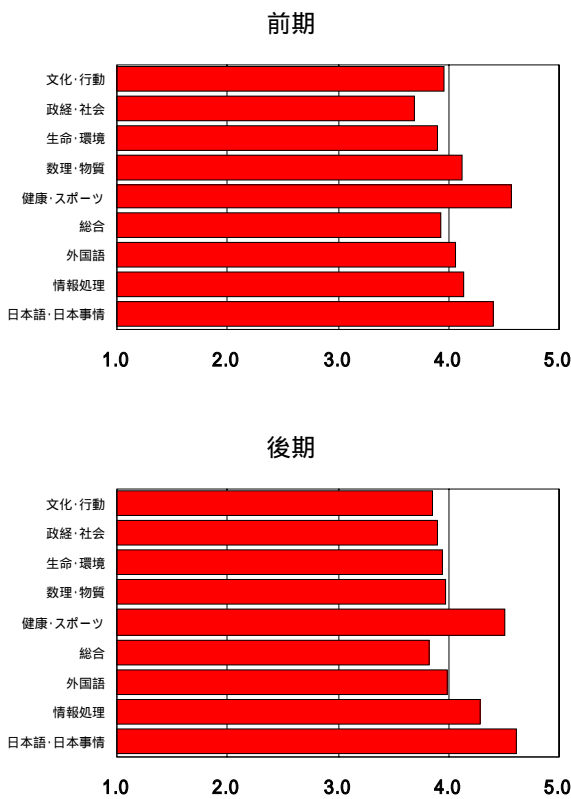


図3 この授業を意欲的に受講しましたか

3-6. 内容を理解できましたか

授業内容の理解度の1位は、前・後期ともに「日本語・日本事情(前期4.58,後期4.35)」,2位は「健康・スポーツ(前期4.39,後期4.28)」で両者ともに群を抜いている(図4)。

3位以下は、前期は「外国語」の3.83から「政経・社会」3.36へと続き、3位から9位までの平均は3.55±0.17となる。同様に、後期は、「情報処理」3.83から「数理・物質」3.46と続き、3位から9位までの平均は3.64±0.14となる。

図4を見ると、3位以下の領域の理解度が、全体的に後期に若干大きくなった印象を受けるが、平均値の差の検定をすると、80%の信頼度においてすら有意の差とは認められなかった。

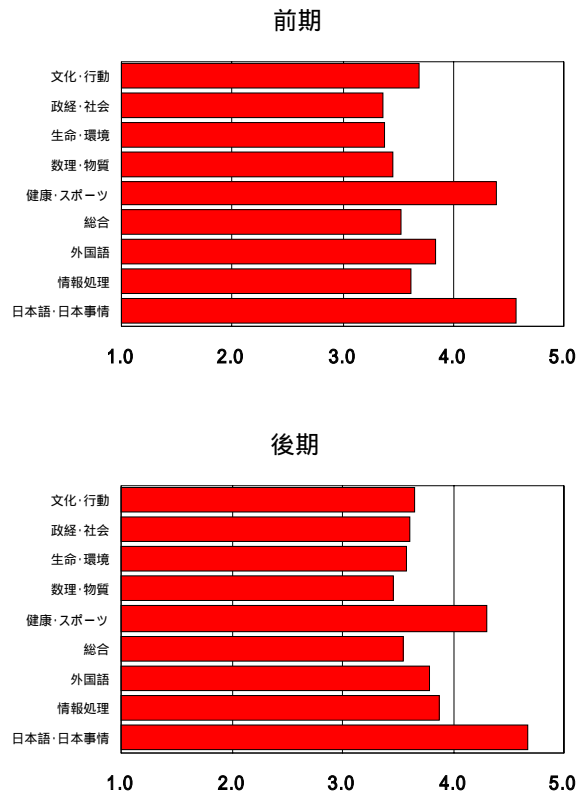


図4 内容を理解できましたか

3-7. 考え方、能力、知識、技術などの向上に得るところがありましたか

前・後期とも、上位3領域で、ポイント4「まあそうである」を超えている(図5)。前期では順に「日本語・日本事情」4.35、「健康・スポーツ」4.28、「情報処理」4.04であり、後期は「日本語・日本事情」4.50、「情報処理」4.32、「健康・スポーツ」4.28である。学生が、いずれもskillに関する領域で進歩、向上をより自覚しているのは興味深い。

3位以下の平均点は前期3.80±0.10で、後期3.89±0.06である。これらの数値より、本学の教養教育は、この調査項目の観点に関しては、概ね有効に機能していると考えて良いのではなかろうか。

ただし、繰り返しになるが、アンケート調査に回答する学生の母集団は、授業に良く出席する学生達だと考えられ、「欠席の常連」の多くと「履修放棄」した学生の意見は、今回のアンケート結果には反映されていないだろう。これら学生が、仮にアンケートに回答したとすると、このような高い評価を与えるとは思えない。これら学生をどうするかが、今後の検討課題の一つであろう。現在検討中のYUサポーティング・システムが有効に機能すれば、これら学生が何故「欠席の常連」や「履修放棄者」になるのか解析が進められ、授業改善に役立つ可能性が開けよう。

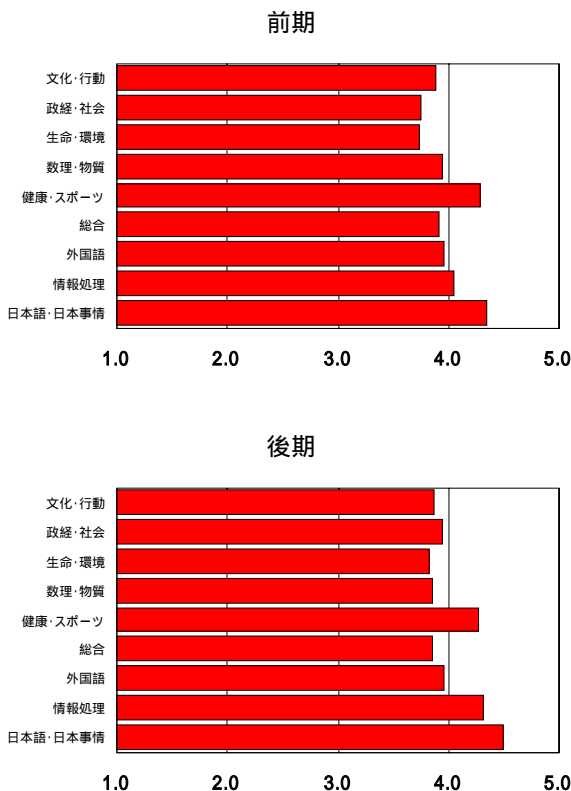


図5 考え方、能力、知識、技術などの向上に得るところがありましたか

3-8. シラバスの記述は適切でしたか

ポイント4「まあそうである」を超えた領域は、前期で「日本語・日本事情」4.63、「健康・スポーツ」4.24の2領域、後期は「日本語・日本事情」4.72、「健康・スポーツ」4.23、「情報処理」4.03の3領域である(図6)。前・後期ともに「外国語」がこれに次いでほとんど4に近い。

3位以下の平均点は前期3.84±0.08で、後期3.89±0.06である。これらの数値より、本学の教養教育のシラバスは、概ね合格点と判断してよいのだろうか。

現在発行しているあの冊子に対する学生の評価は、概ね合格点と判断して良いかも知れない。しかし、あの冊子を本学では「シラバス」と呼んでいるが、あれは「授業概要」ではあるが「シラバス」ではないという意見も仄聞する。「授業概要」なら「授業概要」でも良いであろう。本学として、どのような形式の冊子を編集し学生に配布するか、現行の「授業概要」を充実させて行くのか、本来の「シラバス」を目指すのか検討が必要であろう。

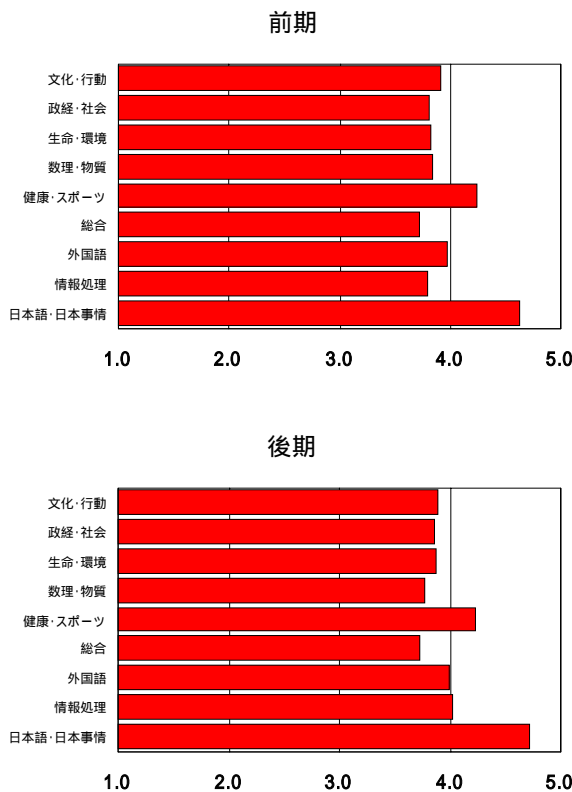


図6 シラバスの記述は適切でしたか

3-9. 教官に熱意は感じられましたか

前期「情報処理」、後期「総合」を除くと、全ての領域でポイント4「まあそうである」を超えている(図7)。

上位3位まで挙げると、前期は「日本語・日本事情」4.45、「健康・スポーツ」4.35、「文化・行動」4.25、後期は「日本語・日本事情」4.44、「健康・スポーツ」4.37、「外国語」4.18の順となる。

教官が熱意を持って授業に当たり、学生がその熱意を感じてくれているのは大変ありがたい事だと言わねばならない。

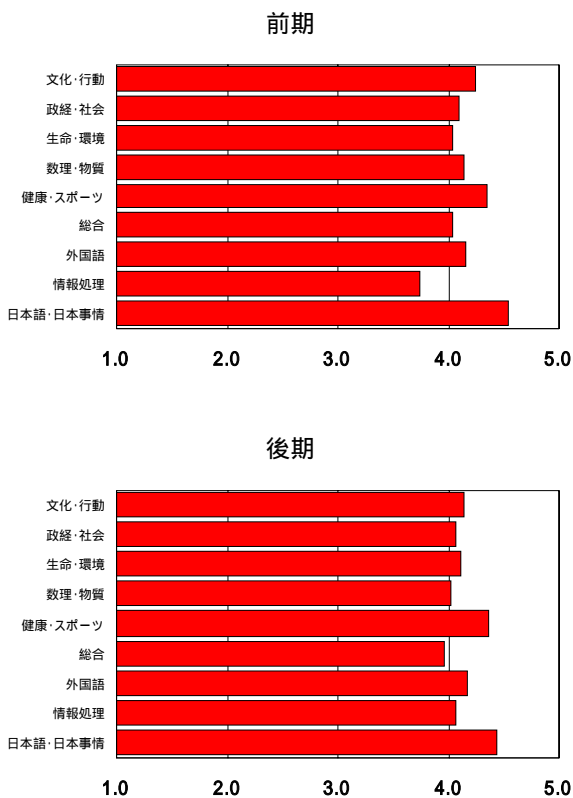


図7 教官に熱意は感じられましたか

3-10. 教え方(教授法)はわかりやすかったですか

前・後期ともに、1位は「日本語・日本事情(前期4.45,後期4.72)」2位は「健康・スポーツ(前期4.13,後期4.12)」で、いずれもポイント4「まあそうである」を上回っている(図8)。

3位以下はポイント4を下回り、その平均点は、前期3.60±0.19で、後期3.71±0.16でかなり低いと言わねばならない。前項目の「教官の熱意」と考え合わせると、これらの領域においては、教官の熱意は十分にあるのだが、教え方にはまだまだ工夫の余地があり、熱意だけが空回りしている構図が浮かび上がる。今後、この点を改善するようなFD活動の必要性がある。

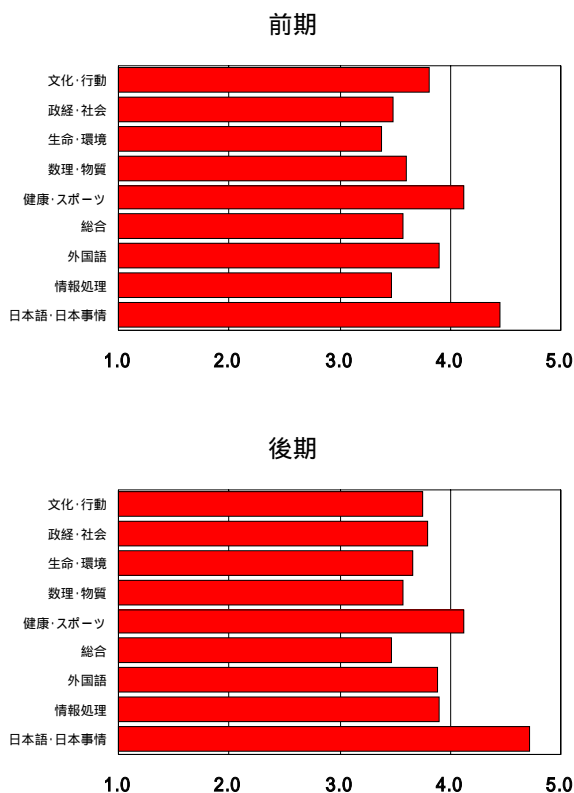


図8 教え方(教授法)はわかりやすかったですか

3-11. 教官の一方的な授業ではなく、コミュニケーションはとれていましたか

ポイント4「まあそうである」を上回る領域は、前期では「日本語・日本事情」4.20、「健康・スポーツ」4.06で、続く「外国語」3.99も4と考えて良いであろう(図9)。後期では「日本語・日本事情」4.44、「健康・スポーツ」4.11、「外国語」4.07となっている。語学系でこの項目のポイントが高いのは、読解、外国語会話等を学生に当てているからであろうか。上位3領域を除く領域の平均は、前期3.39±0.14、後期3.59±0.16と際立って低い。

この項目がアンケートに記載されているということには、授業における双方向性は授業改善に重要であるというメッセージが込められているのである。しかし、双方向性を重視するといかに授業が改善されるか、各教官が納得しないと、各教官はおいそれと双方向性に工夫をこらすようにはならないと思われる。まず、授業において何故双方向性が重要かを、各教官に納得してもらえるようなFD活動が必要であろう。

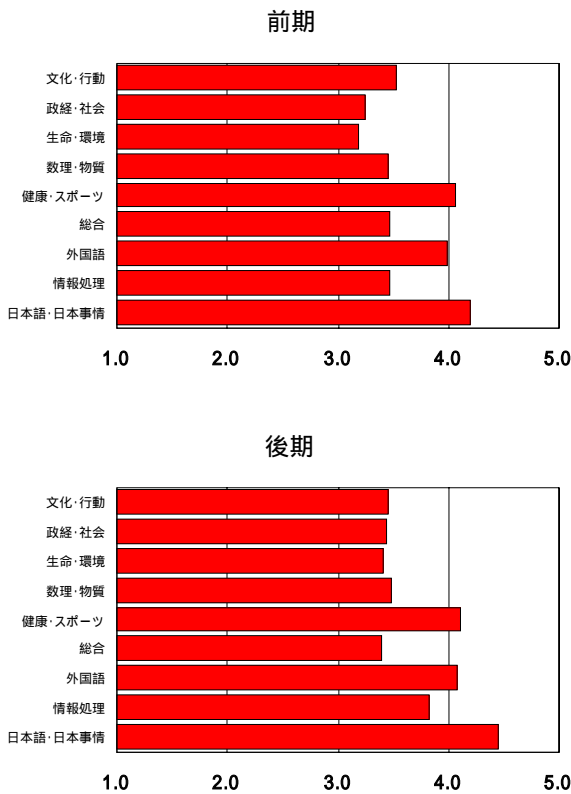


図9 教官の一方的な授業ではなく、コミュニケーションはとれていましたか

3-12. 授業方法は工夫されていましたか

ポイント4「まあそうである」を超えていた領域は、前期「日本語・日本事情」4.26、後期「日本語・日本事情」4.67次いで「健康・スポーツ」4.04である(図10)。

それら領域を除く領域の平均値は、前期3.64±0.19で後期3.68±0.16である。これらの領域では、よりいっそうの工夫が求められていると解釈されるが、何をどのように工夫すればよいかは、多くの教官には五里霧中であろう。この点の解明が重要であると考えられる。

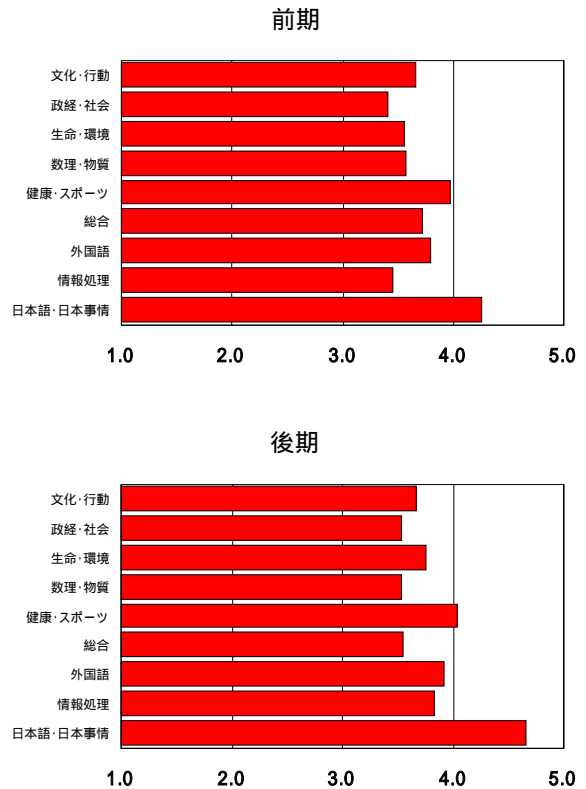


図10 授業方法は工夫されていましたか

3-13. 教官の話は聞き取りやすかったですか

ポイント4「まあそうである」を超えていた領域は、前期は「日本語・日本事情」4.74次いで「健康・スポーツ」4.19、後期は順に「日本語・日本事情」4.89、「健康・スポーツ」4.26、「情報処理」4.09、「政経・社会」4.01である(図11)。

それら領域を除く領域の平均値は、前期 3.76 ± 0.14 で後期 3.82 ± 0.16 である。この中では、前期「生命・環境」の3.57および「情報処理」の3.61、後期「総合」の3.58が特に低い。

この項目は、教え方の中で「聞き取りやすさ」という具体的項目を調査しており、この項目のポイントが低い場合の対処法は具体的に考えられる。即ち「大きな声」で、「発音明瞭」に、「ゆっくり話す」よう心がけることで改善が見込めよう。元々声の小さな教官は、マイクロフォンの使用を検討するのも有効であろう。

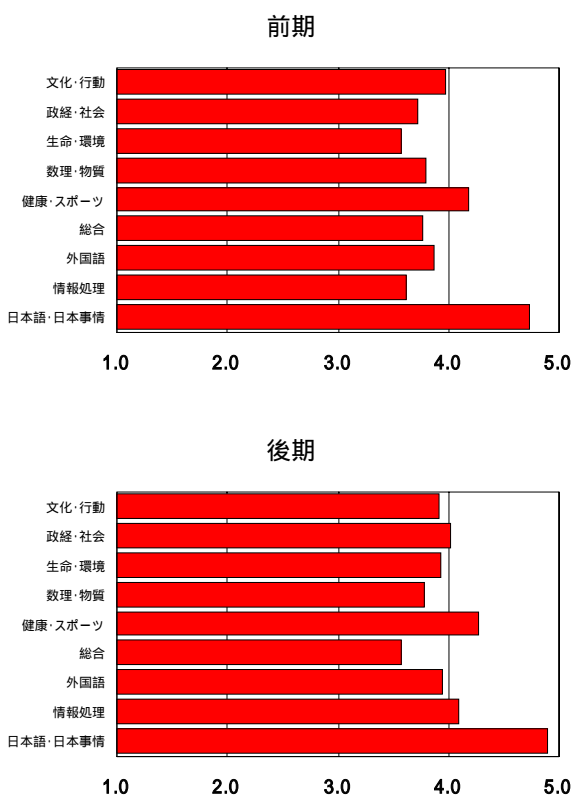


図11 教官の話は聞き取りやすかったですか

3-14. 教科書の指定・推薦や参考書などの情報提供は適切でしたか

前・後期ともに「日本語・日本事情(前期4.40, 後期4.36)」が突出した評価を受けている(図12)。その他の領域はポイント4「まあそうである」を下回っている。これら領域の平均値は、前期 3.62 ± 0.15 、後期 3.71 ± 0.12 である。学生が、教科書等の情報提供に余り満足していない様子が伺われる。

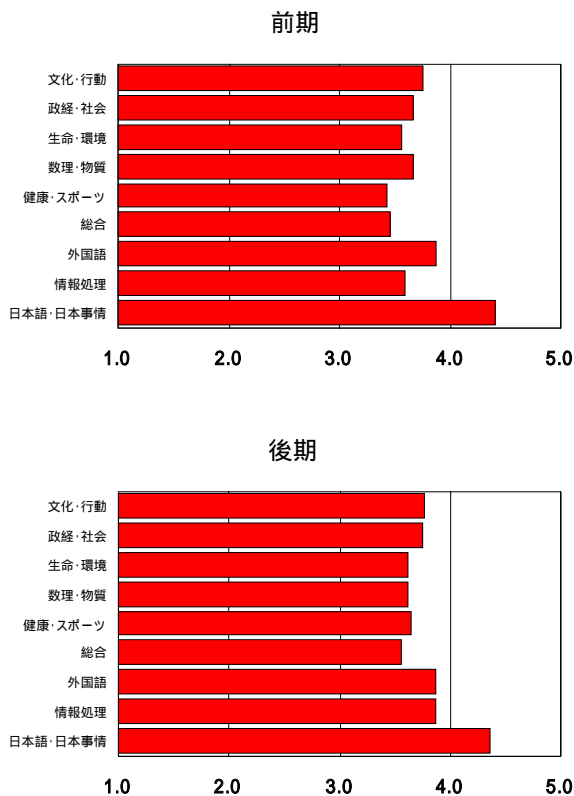


図12 教科書の指定・推薦や参考書などの情報提供は適切でしたか

3-15. 板書やOHPなどの資料提示は見やすかったですか

前期には、ポイント4「まあそうである」を超えた領域は皆無で、後期に唯一「日本語・日本事情」が4.06とわずかに4を超えている(図13)。後期の「日本語・日本事情」を除き、前・後期の平均値を求めると前期が3.54±0.16、後期が3.68±0.16となる。これらの結果は、本学の教官の板書やOHP等の資料提示に学生は余り満足していない様子を示唆している。

3-10で「教官の熱意は十分にあるのだが、教え方にはまだまだ工夫の余地があり、熱意だけが空回りしている構図が浮かび上がる」と述べたが、少なくとも3-13で見たような「聞き取りやすい」話し方、この節の調査項目である「板書」等、教官が意識的に気をつけると、随分状況は改善されるのではなからうか。

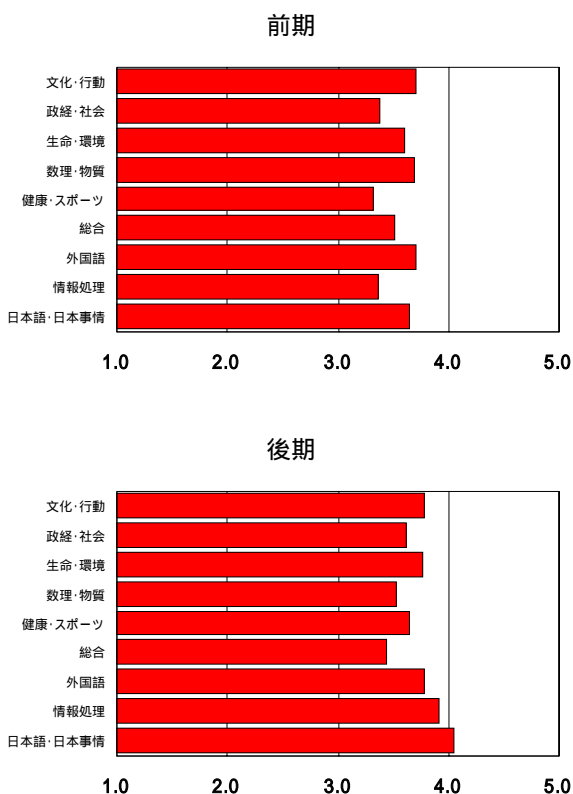


図13 板書やOHPなどの資料提示は見やすかったですか

3-16. 教官が私語や携帯電話を注意するなどして、教室に良好な勉学環境が保たれていましたか

ポイント4「まあそうである」を超えていた領域は、前・後期とも一つだけで、ともに「日本語・日本事情(前期4.20, 後期4.56)」である。残り8領域の平均は、前期3.77±0.14, 後期3.83±0.14で、前期「情報処理」3.52と「総合」3.59, 後期「総合」3.60のポイントが低いのが目に付く。

大学生に私語等を注意しなければならないとは、情けない話ではあるが、そういう時代と諦め、全般的に、私語等、もっと頻繁に学生に注意を促す必要があるようだ。

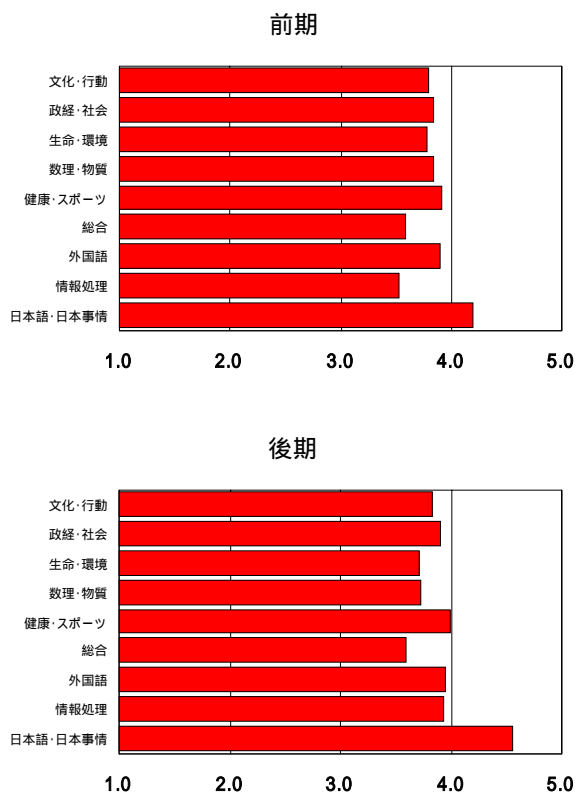


図14 教官が私語や携帯電話を注意するなどして、教室に良好な勉学環境が保たれていましたか

3-17. 教室, 施設, 設備は良かったですか

評価は「日本語・日本事情(前期4.49, 後期4.89)」と「情報処理(前期4.23, 後期4.30)」が抜きん出ている。残り8領域, 後期はほぼ横並びであるが, 前期は「外国語」3.32, 「総合」3.75の低いのが目立つ。

4を超えない領域の平均値は, 前期 3.58 ± 0.16 , 後期 3.83 ± 0.07 である。平均値は後期の方が顕著に高い。平均値の差の検定をしてはいないので, この差が有意かどうか分からないが, 前期には梅雨の湿度の高い時期, 梅雨明けの気温の高い時期が含まれ, エア・コンディショナーの付いていない教室に対する評価が悪い可能性がある。年次計画で, 徐々にエア・コンディショナーを設置しているので, この点に関する不満は, 何年後かには解消されると思われる。その他, 具体的にどのような点で学生が施設, 設備に不満なのかを解明する必要がある。

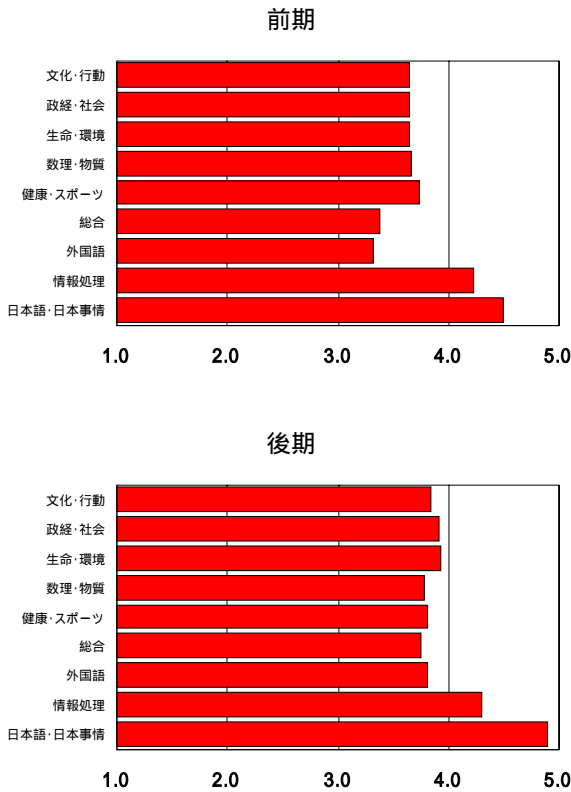


図15 教官, 施設, 設備は良かったですか

3-18. この授業を総合的に判断すると良い授業だと思いますか

前期, ポイント4「まあそうである」を超える領域は順に「日本語・日本事情」4.55, 「健康・スポーツ」4.47, 「外国語」4.09, 「文化・行動」4.07である。それに続く「数理・物質」3.99, 「総合」3.97もほとんど4と考えると, 9領域中なんと6領域の授業に学生は「まあ満足」していることになる(図16)。

同様に後期は, 「日本語・日本事情」4.89, 「健康・スポーツ」4.37, 「情報処理」4.18, 「外国語」4.09が4を超し, 続く「文化・行動」と「生命・環境」が3.98, 「政経・社会」が3.97とほとんど4である。後期もまた, 9領域中6領域の授業に学生は「まあ満足」している。

前・後期ともに4を超えたか, 限りなく4に近かった領域は「日本語・日本事情」, 「健康・スポーツ」, 「外国語」, 「文化・行動」の4領域で, 「文化・行動」を除くといずれもskillに関係する領域である。

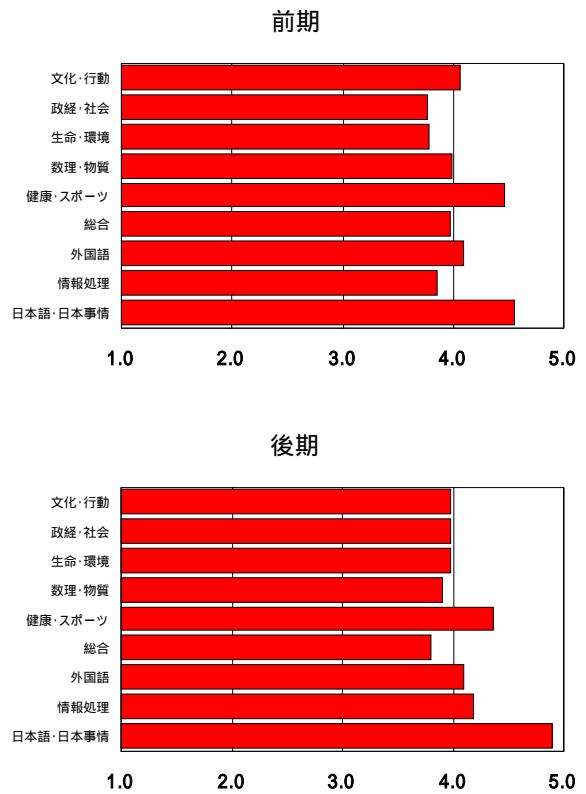


図16 この授業を総合的に判断すると良い授業だと思いますか